

団体名	未来の福祉施設を作る親の会
事業名	ワークショップ

目的・背景	事業の効果
<p>将来的に健常者と障害者が交流できる生活介護の施設を作りたいと考えており、先ずはそういう活動をしている事の広報活動の一環で、健常者、障害者の親、健常者の親を対象としてのワークショップの開催を行います。</p> <p>私達が行うことで、孤立しがちな子を持つ親御さんのコミュニティ作りに繋がりたいと思っています。</p> <p>また、対象者を絞りつつも、誰でも参加できる、参加したいと思える内容のワークショップを行うことで、より広い繋がり構築を目指しています。</p>	<p>手作業をしながら会話を楽しめる環境を作ることにより、孤立しがちな人達(地域住民)が繋がる機会が作れば、小さな繋がりから地域の繋がりに、面識のない人がワークショップを通して知り合うことで現状では起こり得ない波及効果を期待しています。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>全 3 回開催</p> <p>7/8 布ぞうり 参加人数 7名</p> <p>11/1 スタイ 参加人数 5名</p> <p>3/6 防災頭巾袋 参加人数 3名</p>	<p>初年度ということもあり、準備段階から右往左往することもあり、なかなか思う通りにはいかないという事実にも直面しました。</p> <p>しかしながら、初対面の人同士でも「同じものを一緒に作る」という行為は、会話に繋がり、まだまだ小さな繋がりですが、継続することにより、大きな輪にしていけるのではないかという手応えがありました。</p> <p>課題としては、「ワークショップに来ていただく」というのが一番高いハードルであり、来てもらうことができれば楽しい時間を過ごし、作品を作るという事は当初考えていたより、より多くの達成感を味わって帰られた方が多かったのは、私たちの自信にも繋がり、嬉しい誤算でした。</p>



団体名	ふれあい食堂
事業名	ふれあい食堂

目的・背景	事業の効果
<p>両親が共働きで孤食の食生活を送る子や、放課後に一人でお留守番をする子どもたちに、手作りの食事やおやつを提供、時には一緒に調理をしたり、近隣住民の方々との関わりや居場所を提供し、子どもたちの豊かで充実した生活と社会づくりに寄与することを目的とする。</p> <p>子どもが地域の方々と交流する機会を創出することにより、防災・防犯につなげるとともに、子どもが高齢者も大切にする気持ちを育て、将来的な福祉の目を養うことを目的とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 孤独で寂しい思いをしている子ども達の心のよりどころになる。 ● 調理を教えることを通し、子どもの生きていく力を育む ● 子どもを見守るネットワークが広がり、防災・共生・福祉につなげる ● ワンオペ育児（母親）の援助、地域の方々と交流する機会を創出する
実施結果	事業の課題と今後の展望
<ul style="list-style-type: none"> ● 毎回参加する小学生が増え、楽しみに参加しているとの感想を保護者からいただいた。保護者の帰宅が遅い子もいるため、孤独を感じずにお友達などにぎやかに過ごせる場として親子ともに喜ばれている。 ● 男の子でも野菜を切ったり、盛り付け、配膳を積極的に手伝ってくれる子がいて、回を重ねるごとに上達している。 ● お手伝いをしてくれる小学生は「次に何やる？」と積極的に動いてくれるのでとても頼りになる存在にもなってきた。「褒められることを喜び、ふれあい食堂で過ごす時間が楽しい」と保護者の方からも嬉しい報告をいただく。ふれあい食堂がお料理を身近に感じられる場にもなっている。 	<p>【課題】 前年度に比べて参加者もボランティアスタッフも安定して運営できるようになった点はとても良かった。一年の活動を通して、宣伝・広告が課題に残る。チラシ掲載をできる箇所が少ないため、あまり宣伝・広告に注力しなかったが、新たな参加者の獲得や、ボランティア、寄附を募る意味でも宣伝が大事だと学んだので、今後は宣伝に力を入れ SNS も活用していきたい。</p> <p>【今後の展望】 今後は食事の提供だけではなく、子どもの居場所として充実するように「遊び」や「学び」もできる場にしていきたい。</p>



団体名	NPO 法人 MOE
事業名	物づくりに関する事業

目的・背景	事業の効果
<p>もの作りに関する事業を通して、多世代の方や障害者の方と交流する場を作る。 自分で作る事の大切や楽しさ・喜びをってもらう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● バリアフリーのイベント企画をすることで、障害のある方も参加しやすい環境となり、健常者の方は障害者に対する理解も深まる。 ● 多世代の交流によりそれぞれの悩みを話したり、経験したことを聞くことで心の負担が、軽減でき日常では知りえない事を知ることが出来る。
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>すべてのイベントにバランスよく、多世代の方や障害者の参加には、ならなかったが、参加者も増えてきてレギュラーのイベント参加の方も増えて、キャンセル待ちが出る回もあった。</p> <p>実際に、交流することで誤解していたなどの話も3月のイベント開催時には話題が少しづつ出てきたりしている。(特に知的障害の方の理解、自閉の方は全て他害があると思ってるなど)</p> <p>参加者、みなさんが日常なかなか経験が出来ない物作りというものを通して楽しさを知っていただけた。</p>	<p>【課題】 60歳以上の高齢者の方の参加が少ない為、イベント開催の告知をどのようにしたらよいか改めて検討が必要となった。物作りのイベントなのに、食に関するイベントだけで良いのか。</p> <p>【展望】 もっと多世代に参加しやすい物作りのイベントを考え現在は、食に関する事のみになっていますが、どんな方でも参加できる色々な物作り企画を考え広めていきたい。</p>



色々な方がテーブル単位で交流できるよう配置



どのイベントも未就学児でも参加可能



作業が終わり試食、交流している様子

団体名	ふつうのくらし
事業名	非正規女子のもやもやを語る、もやカフェ

目的・背景	事業の効果
<p>非正規職で働いていて収入が少ない、何となく将来が不安。親の介護が始まったら仕事を続けられない。ダブルワーク・トリプルワークをしていて、心身ともに疲れている。</p> <p>そんな非正規職で働く女性たちが、お茶とお菓子をつまみながら、仕事と暮らしのもやもやを、ざっくばらんに語る場です。</p> <p>悩みを口に出して語ることで、ストレスの低減を目指すことと、仕事や暮らしに役立つ情報を発信する場を作り出すことを目的としています。</p>	<p>参加者からは「普段は話せないことが話せた」「他の人の話を聞いてためになった」「久しぶりにたくさん笑った」などのポジティブな声をたくさんもらっています。</p> <p>また、昨年度自団体で実施した時には、川崎市外や県外やからの参加者が多かったのですが、今年度の活動の結果、川崎市内の参加者も増えました。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>「もやカフェ」自体は2019年度から活動を開始しましたが、自団体だけでは集客力がなく、参加者の低迷が続きました。そこで、かわさき市民公益活動助成金助成事業に応募し、広報・宣伝に力を入れました。</p> <p>広報活動の甲斐があり、今では毎回5名程度が継続して参加するようになってきています。</p>	<p>参加者が毎回バラバラなので、固定して参加する人を増やすことが直近の課題です。また、運営の担い手がダブルワーク・トリプルワークで不安定な働き方をしていることが多く、安定して活動ができるようメンバーを募ることが今後の課題です。</p>



クリスマス会の後の記念撮影



ゲストを呼んだ後援会の様子



会場の雰囲気

団体名	NPO法人ワーカーズネットかわさき
事業名	ワークルールセミナー、ワークルールカフェ

目的・背景	事業の効果
<p>私たちの団体にて毎月行っている街頭労働相談にて、数名の方からお受けした相談が、非常に印象的でした。Aさん「有給が取れないのですが、これは違法ですか?」、Bさん「上司から、酷いセクハラを受けてしまいました。どうすればよいですか?」、Cさん「会社が、どうやら雇用保険料を支払っていないようだけど、大丈夫ですか?」労働状況がますます劣化するなかで、実際に前記のようなご相談を受け、所謂ブラック企業からの身の守り方をはじめとしたワークルール(労働法など)を身に付けることが非常に重要であると感じました。また、Bさんから寄せられた切実なセクハラをはじめ、パワハラ、マタハラの問題に直面した場合に、ワークルール自体は知っていても、具体的にどのように対処していけばいいのか(証拠の残し方、相談すべき機関等)ということについても身に付けることが、非常に重要であると実感しました。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 街頭労働相談において寄せられた相談のみならず、それぞれの実務家が経験した内容をもとに、明日から使えるかたちでの実践的なワークルールや社会保障制度の習得を図ることができます。 2. セクハラ・パワハラをしない、させない職場づくりの実践方法を学ぶことで、男女が働きやすい職場、ひいては男女が働きやすい社会の形成に寄与します。 3. 非正規の方、シングルの方など、現在、働き方や生き方、家族構成等が多様化するなかで、社会保障制度に関する知識を適切に会得し、実践することで、人々の生き方をより充実させることに寄与します。
実施結果	事業の課題と今後の展望
<ol style="list-style-type: none"> 1. 弁護士、社会福祉士など各講師が、それぞれの経験に基づき、実践面をふまえたケースメソッドにより、ワークルールや社会保障制度を分かりやすくお話しすることができました。アンケートにおいても、「具体的な事例に基づいて分かりやすかった」という声をいただきました。 2. 特に、第2回が、セクハラ、パワハラをテーマとしたセミナーであったところ、当該テーマを自身の具体的な案件として取り扱った経験が豊富な、講師に担当していただきました。 3. 社会保障制度について、ライフスタイルに沿って必要となる社会保障制度を、実際の相談例等に基づいてお話ししました。 	<p>雇用が劣化する中で、ワークルールをある程度知っている方はいても、具体的にどのように使っていけばよいのかにつき、なかなか浸透していないということが改めて分かりました。</p> <p>このため、ワークルール教育は当然重要であるうえ、その活用法も、より広く学習していくことの重要性を改めて知りました。</p> <p>今後は、今回のワークルールセミナー実施に伴い繋がりのできた高校や大学において、出張してセミナーを実施していくことができると計画しています。</p>



第3回ワークルールセミナー



ワークルールカフェ

団体名	なかはらミュージカル
事業名	なかはらミュージカルの舞台美術制作ワークショップ開催

目的・背景	事業の効果
<p>市民参加型のミュージカルとして、世代を超えた豊かな「交流の場」を作り、人や街への理解を深めることにつなげていく「なかはらミュージカル」。この本番で利用する舞台美術の制作ワークショップを開催。ミュージカルに出演するという形だけでなく、ワークショップ形式による舞台美術制作を通して、多くの市民が参加する場を提供し、未来の「まちづくり」、「ひとづくり」、「新たな地域交流」に貢献できる人材育成につなげていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 世代を超えた交流の場の創出 ● 地域の歴史や成り立ちを知る機会の創出 ● 次代を担う子どもたちに対して、地域に対する信頼と安心の醸成 ● 川崎市／中原区に豊かな文化環境を提供
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>参加者 25 名のうち、8 人はミュージカルのキャストやボランティアでの関りのない方がご参加いただいた。なかはらミュージカルを知らない方が図書館に配架したチラシでワークショップの存在を知って応募された方もいらして、ミュージカルへの出演という形以外での市民参加の形は一定程度実現できたと考える。</p> <p>また、8 名の内、1 名の方は年配の方、1 名の方は参加者の知り合いの方でシンガポール人の方が参加されるなど世代や国境を越えた関りを創出できた。</p>	<p>参加者のアンケートからは「貴重な経験ができた」「アットホームな雰囲気」「楽しい時間」という声が複数聞かれたことは、安心できる場作りができた成果として特記したい。</p> <p>ただし、本ワークショップでは、作業時間を確保するために、今年度のミュージカルのストーリーや、過去のなかはらミュージカルの公演情報などをお伝えする十分な時間がなかったことから、参加者になかはらミュージカルの魅力を伝えることは限定的であったと反省している。</p> <p>今後は機会あるごとに過去公演の映像を流すなどして、なかはらミュージカルの魅力を伝える機会をより積極的に設けていきたい。</p>



子どもから大人まで参加



絞り染めの過程



染めあがった作品

団体名	特定非営利活動法人はたらくらす
事業名	暮らしを彩るギャザリング～“わたし”が輝く！生活に彩を添えるワークショップ～

目的・背景	事業の効果
<p>幸区で自主保育グループを立ち上げ、祖育て世代の母親たちと共に地域の中で活動を続けてきたことを通して、子育ての孤立により育児負担が増加していると強く感じるようになりました。近くに両親・親戚・友人等がない状況での保育は、体力的にだけでなく精神的にも大変苦しいものです。この問題を解決するためには、子育ての悩みを相談できる仲間、趣味を共有したり楽しみを分かち合える仲間、そして「母親」ではなく、「わたし」として輝ける場所が必要です。本申請事業である多種のワークショップを通して、講師を含めた参加者全員が心身ともにリフレッシュしでき、人と人、そして地域がつながる場をつくること、本事業の目的です。</p>	<p>既に各地で活躍されている講師の方々が更に輝く舞台となることはもちろん、参加者の中からもいつか講師になりたいと夢を抱く人が出てくることを期待します。子育て中のママや、才能を披露する場所がこれまでなかった方など、地域に眠っている財産の発掘につながります。また、参加者は日々の暮らしに彩が加えられ「また来たい」と思える。そして、楽しい時間を共有することで人と人がつながり、その輪が広がっていきます。その結果、人と人の地域でのつながりが出来る、子育ての孤立による育児負担を軽減されるなど、地域が抱えている課題の解消に効果が期待できます。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>おしゃべりカフェでは、参加されるママたちのちょっとした不安や子育てで工夫していることを共有できる場となりました。リピーターも増え、口コミで参加者が増えていき、その後の交流へとつながりました。</p> <p>また、ママたちの「やってみたい！」を引き出すことができ、特技を生かしたワークショップを新たに企画する方もいらっしゃいました。</p> <p>食べよう描こうでは、おいしいデザートを食べるだけでなく、絵も描けることに魅力を感じてくださり、何度もリピートして下さる方々もいらっしゃいました。</p> <p>カフェでアートは、全体的に参加人数が少なかったものの、毎回来てくださる固定ファンが出来ました。参加者からは、「自分で材料や道具をそろえるのは大変！手軽に絵画が楽しめるのが魅力的！」と出来上がる作品に感動されていました。</p>	<p>更なる人材発掘と規模を拡大。主に子育て中の方や地域の方を講師に向かえ、生活に係るテーマのものや、学びを深める個々人の楽しみを満たすものなどワークショップ付き、0, 1, 2 歳集いの場を開催します。</p>



優しい講師の指導で素晴らしい作品が！



早くおいしいデザート食べたいな～



何気ないおしゃべりと悩み相談できる仲間

団体名	Forza 川崎
事業名	シッティングバレー普及・実践事業

目的・背景	事業の効果
<p>シッティングバレーボールチーム・Forza川崎は、障害を持っている当事者が中心となり、その支援者・友人等が協力して立ち上げました。シッティングバレーボールは、床に座ったまま行うバレーボールであり、障害の有無や年齢に関係なく一緒に楽しめるスポーツです。現在パラスポーツに注目が集まっていますが、体に障害を持つ人にとって、スポーツはまだハードルが高く、川崎市内でもシッティングバレーボールチームは当チームだけです。当チームは障害を持つ当事者が代表を担っており、スポーツチームとして稀有な存在と考えています。パラスポーツとしてのシッティングバレーボールを普及させることだけでなく、Forza 川崎の活動自体が当事者活動として新たなモデルになるものと考えています。</p>	<p>シッティングバレーボールの体験会では、子どもから大人まで多くの人に参加された。参加者の全員がシッティングバレーボールは初体験だったが、床の上で動くことの難しさ、ボールを拾う面白さ等は実感してもらえた。</p> <p>5月よりブログ・ツイッター等のSNSを開始した。閲覧者は多くはないが、SNS経由で体験希望の申し込みが来るようになった。</p> <p>大学連携事業で作ったリーフレットは、障害を持つ代表の「Forza 川崎発足までの気持ちの経緯」を載せ、障害を持ってからでもスポーツを始める後押しとなるようにした。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>1. 体験会の実施 : 2回</p> <p>多摩スポーツセンターにおいて、パラスポーツ体験会の中でシッティングバレーボールを担当。7月26日:約30名 / 10月14日:約60名の方が参加された。ソフトバレーボール・風船を使用し、床上での移動方法・パスのやり方等をゲーム形式で行った。</p> <p>2. 広報活動</p> <p>ブログの開始と発信(21回)、 ツイッターでの発信(42回)、 みんなのスポーツサイトへの登録・大学連携事業の参加</p> <p>3. チームの強化</p> <p>①定期的な練習 : (県立麻生養護学校) 延べ31回 ②メンバーの増加 : 障害者メンバー1人 新メンバー5人 ③夏パラバレーボール選手権大会初参加 0勝2敗</p>	<p>【課題】</p> <p>1. シッティングバレーボールを知ってもらうこと 2. 当事者団体としての Forza 川崎を知ってもらうこと</p> <p>シッティングバレーボールを知ってもらうために、体験会を今後も開催したい。当事者団体としての Forza 川崎をより知ってもらうため、HPの工夫・SNSの発信・動画の制作等をしていく。</p> <p>【今後の展望】</p> <p>1. 川崎市内に Forza 川崎以外にもシッティングバレーボールチームが出来ること 2. Forza 川崎のメンバーが増え、メンバー特性に合わせたチーム作りが出来るようになること</p>



パラスポーツ体験会で指導しました



通常の練習風景



大会に参加しました

団体名	K-GAP 川崎ギャンブラーズ アディクションポート
事業名	K-GAP 市民セミナー「発達障害とギャンブル依存」

目的・背景	事業の効果
<p>川崎 ギャンブラーズ アディクション ポート」(K-GAP)は、ギャンブル依存症の予防と回復支援を目的とし、相談及び支援事業と啓発活動を行っています。川崎市は、全国有数のギャンブル都市であり川崎市内で初めてとなるギャンブル依存症の方専門の回復支援活動を平成 29 年 12 月より開始し、川崎市を中心にその啓発・予防教育、相談・援助活動を行ってきました。この度は関係者の皆さまのご協力を頂き、ギャンブル依存症について広く知って頂くことを目的としてK-GAP市民セミナーを開催いたしました。</p>	<p>市民生活のごく身近にある精神障害「ギャンブル依存症とはなんなのか？」という事を知って頂き、更に多くのギャンブル依存症者が発達障害の特長があることから、もう一歩踏み込み「発達障害とは何か？」を理解し、そして共に考える機会の提供を意図しました。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>東京都発達障害者支援センター(TOSCA)センター長 山崎順子先生にご登壇頂き基調講演をして頂きました。発達障害があり周囲に理解されず困難な生き方をしてきた(現 30 歳以上の世代)事例の話により障害そのものだけでなく生きづらさに対する理解が深まりました。ギャンブル依存症当事者の方にもお話しをして頂き、インナーチャイルドワークを行い、シェアリングで考えてみるという、理解する感じる癒す考える機会の提供となりました。参加された家族の方からは「本人に何を言ってもずっと理解されない事が理解できた」「ずっと誰にも言えず一人で苦しんでいた。自分が家族として関わるときどうしていったら良いのかが分かった」等の声を頂きました。</p>	<p>内容的には当初意図したとおり発達障害への理解を深める機会となったものの、スケジュールの都合により平日の開催となり来場者は多くはなかった、見込んでいたよりワークショップ参加者も少なく入場者は 36 名と僅かだった。スケジュール調整により土日・祝日の開催に至らなかったことも課題。</p> <p>SNS 告知に関しては未知の領域だったが、391 件のリーチがありアクセスは 45～54 歳が半数近くであったがどれだけ来場に繋がったかは不明であり、今後は告知や周知にもより取り組んでいきたい。</p>



看板



会場入口



セミナー会場

団体名	かわさき ^{ワイ} wai の会
事業名	認知症の症状を軽くする4つのケアの講習会

目的・背景	事業の効果
<p>認知症の症状を軽くするために水分・栄養・運動・便通の4つで体調を整え平穏な心理を保つようケアすることが大事と言われており、その方法について学んだり、介護の情報交換をしています。</p> <p>会の目的は、高齢者の自立支援介護(ADLを自立させ、認知症の症状を消失させ、それらを維持する)に関する活動を学び、実践することにより、高齢者が自立性を取り戻し、また介護する家族の負担を軽減する事にあります。また、その学びや実践を仲間や地域に伝えることも目的の1つとなっています。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ケアマネージャー、サービス事業所にも協力を依頼し連携して4つのケアを実践して介護することにより、介護に付随する様々なことに悩んでいる家族の負担を軽減することができます。 2. また、認知症の当事者の方にとっても快適な生活を送ってもらえます。 3. 川崎市主催「認知症あんしん生活実践塾」を卒業された方が継続的に4つのケアを実践できます。
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>講習会 4回開催(3か月に1回) 参加者数 延べ60名(平均約15名/回) [活動内容] 1)講習会 講義と事例検討 2019.04. 「認知症介護について・復習」 小平めぐみ先生 2019.07. 「認知症介護・事例検討」 小平めぐみ先生 2019.10. 「認知症介護の基礎」 小平めぐみ先生 2020.01. 「認知症介護・課題の答合せ」 小平めぐみ先生 「運動領域・腰痛予防体操」 秋田美也子先生</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. サービス事業所所属職員の会員も増え、講習会で学んだことを事業所に少しずつ還元してもらっていると考えます。 2. 介護をしている会員からは認知症の当事者の状態が少しずつ安定してきていると報告が上がっています。 3. 川崎市主催の『認知症あんしん生活実践塾』を卒業された方が入会されました。安心して継続的に4つのケアを実践していただけていると考えています。 4. チラシ等の広報活動はしていましたが、市民の方に広く普及するのはなかなか難しかったです。2020年は広く公開講座を計画しており、皆様に知っていただく予定です。



講習会 講義風景



講習会 専門領域講師講義



会員集合写真

団体名	玉川地区夏まつり実行委員会
事業名	玉川地区夏まつり

目的・背景	事業の効果
<ul style="list-style-type: none"> ● 地域商店、幼児からお年寄りまで全世代の住民参加のイベントにし、玉川地区およびその近隣地区も含めた武蔵小杉エリアの地域の賑わいづくりを目指す。 ● 子育て世代が増え続ける武蔵小杉エリアでは、地域横断的に幼稚園／保育園への通園が増えている。また、私立中学校への進学率も高まりつつあり、既存の「地縁」とは違った軸で気楽に地域と接点を持てる場づくりが求められている。玉川地区において長期にわたり本夏まつりを続けていくことにより、子どもたちが大人になった時に同窓会的に集まれる場をつくりたい。また、こうした場づくりや楽しい夏まつりの思い出を通じて、住民の地元意識を高めていきたい。 	<p>【参加した子どもたちの声】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学校が離れた友達と久しぶりに一緒に思いっきり楽しめる機会がもてた。卒業した小学校にまた来られたこともうれしかった。 ● 小学校が離れても同じ保育園の友達と一緒に花火を見られてうれしかった。 <p>【参加した保護者の声】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域の顔見知りの方が出店されていたり、会場に多くいらっしかったので、親も安心して参加することができた。何かできることがあれば来年はお手伝いしたい。 <p>【参加された地域の方の声】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 会社帰りにふらりと立ち寄りました。活気があり楽しかったです。
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>参加者数: 延べ 2000 人(当日運営ボランティア 70 人)</p> <p>開催日時: 2019 年 8 月 1 日</p> <p>場所: 川崎市立下沼部小学校 校庭</p> <p>主な参加者: 玉川地区小中学校の生徒／児童／卒業生およびその家族・友人、玉川地区各町内会、地域商店会、地域スポーツチーム、NEC など地域にある企業にお勤めの方、近隣地区(エリマネ地区、中原地区)にお住まいの方</p> <p>主な出店団体: 子ども会、町会、地域スポーツチーム、中川部屋、新田商店(向河原商栄会)、放課後@ホーム(民間)</p> <p>当日スケジュール: 16 時～模擬店販売開始</p> <p>17 時～盆踊り</p> <p>18 時半～キッズ相撲</p> <p>19 時～盆踊り</p> <p>20 時～全長 50 メートルナイアガラ花火</p>	<p>事業収支の改善</p> <p>→ 地域の方やお店より多くの協賛をいただいた(54 口/576,000 円)が、収支は赤字の状況。今後も継続開催できるよう、クラウドファンディングに挑戦するなど、収入源を広げる一方で、趣旨に賛同いただける方から協賛いただけるよう継続的なコミュニケーションを図る</p> <p>子どもたちの活躍の機会提供</p> <p>→ 初回開催後に多くの子どもたちから「自分たちもお店を出したい!」「花火のカウントダウンをみんなでしたい!」「盆踊りでもっといろんなダンスしたい」といった声がかかれた。こうした子どもたちのやりたい気持ちをかたちにする機会や運営の工夫をしていきたい。</p> <p>より効率的な当日運営</p> <p>→ より多くの方楽しんでいただけるよう会場の安全確保や模擬店の待ち時間短縮、十分な飲食物の提供など改善を心がけたい。</p>



全長 50 メートルナイアガラ花火



盆踊りでは子どもたちが太鼓をたたきました



キッズ相撲の様子。ちゃんこ鍋のふるまいも

団体名	Ship
事業名	インクルーシブな街を目指して／上映会

目的・背景	事業の効果
<p>現在、通常学級において学習面、行動面において著しい困難を示す生徒は1クラス2～3人といわれています。通級指導教室へ通う子供は10年間で2倍以上増えています。</p> <p>困難を示す生徒とは困った子ではなく困っている子である。映画上映や講演会の開催により、まずは親、地域の大人、先生方への気づきと理解を深めることを目的とします。</p> <p>川崎市の教育プランに「共生・協働」とあります。理解してくれる大人が増えることによって、子供達の相互理解がすすみます。また、全ての子供達がのびのびと生活できる環境がつかれることによって、インクルーシブな街への発展を目指します。</p>	<p>小学校のあり方を改めて考えさせられました。(教育関係者)</p> <p>考えさせられる良い映画を観られました。(保護者)</p> <p>など、アンケートからも「考えさせられる」というキーワードが多くみられました。事業の目的である気づきと理解へ繋がるきっかけという効果はあったのではないかと思います。</p> <p>また、もっと知りたい。川崎を良くするヒントがたくさんあった。まわりの対応がとても大切だと思いました。などの声から、家族という枠から出て、子どもを取り巻く環境や大人達の対応の大切さを感じてもらえたという成果も得られたと思います。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>当初120名の方に来館してもらうという目標の中で始めましたが、結果として188名(大人142名、子ども46名)の方に映画を観て頂くことができました。</p> <p>アンケートの内容からも、事業の目的はおおむね達成できたのではないかと思います。</p> <p>相談業務としては、目標には全く及ばず方向性の根本的な見直しが必要だということが明らかとなりました。</p>	<p>課題としては、同じような思いをしている方との交流会を企画してほしい。という言葉もありましたが、そこまでには至りませんでした。</p> <p>また、相談業務に関しては、上映会によりお一人の方からの連絡をいただき行いました。実際相談がないのであれば良いことですが、まだ悩んでいる多くの保護者がいる現実を考えると伝える方向性を見直すことが必要だと感じました。</p> <p>今後の展望としては、子ども支援としての面と親の相談という2つの方向性をもっていましたが、目的を明確にするために子ども支援として1本化し活動していく中で親からの相談があれば対応していくというカタチをとっていければと考えます。</p>



試写会



受付



上映後、活動の紹介

団体名	地域上映支援センター
事業名	地域での映画上映活動を活用した地域コミュニティーづくり

目的・背景	事業の効果
<p>少子高齢化によって、地域の疲弊化・空洞化し、コミュニティーが衰退していく中で、出張映画上映活動を行い、地域での映画上映活動を活用した地域コミュニティーづくりを目的とした。</p>	<p>映画は映画館で見る時代から、現在通信技術の進歩により1人で見るのが可能な時代となった。映画館へ足が遠のいてしまった世代が、自分たち世代が生きてきた記録を見てきたこと、映像の原点ともいえるべき、無声映画を野外での大投影もまた世代に限らず普及できたこと、LGBTという言葉だけでなく、ジェンダーの平等を上映会・講演会・ライブで表現でき、広く啓蒙できたことは、映画というものが単に娯楽的な要素のみならず、上映活動を文化として表現し、大勢の人々に感動を届けられた。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>映画館へ足が遠のいてしまった世代に川崎市アーカイブ映像の上映は大好評であった。他方、地域のまつりでの野外上映は、夏の夜の花火大会の如く、大勢の人々を喜ばせた。LGBTに関連した映画の上映と講演、作品主題歌ライブは、大勢の参加者を感動の渦に巻きこんだ。LGBTへの理解のみならず、誰もが笑顔でくらす社会について、主催者と参加者に一体感が生まれた。</p>	<p>当初は、福祉施設や自治会エリアに昭和時代のアーカイブ映像の慰問上映を高齢者を中心に行うことが地域コミュニティーづくりと考えていた。しかしながら、地域コミュニティーづくりを考えたときにまず、映画をみんなで見るという行為が文化活動として社会に認知してもらうこと＝プロモーションが必要であることも踏まえ、高齢者という世代のみに限定することなく、全ての世代を対象に、映画を届けてきた。映画館のないところで映画館をつくり映画を上映することは、容易いことではなかった。しかしながら、この事業が他につながり、市民が市民の手で映画上映活動が広がれば、地域のコミュニティーづくりにつながると手応えを感じた。3月にも上映活動を計画していたが、コロナの影響で止む無く中止した。少しずつではあるが、手探りでここまで来れた。そしてこれからも、一日一日を大切に歩いていきたい。</p>



野外上映会(新百合ヶ丘駅エルミロード壁面)



LGBT映画上映会チラシ



2/15LGBT上映会会場 満員御礼

団体名	かわさき子ども食堂ネットワーク
事業名	食で広がるネットワーク

目的・背景	事業の効果
<p>「食」は日々生活する中で大切な基礎の一つと考えます。以前、高齢者向け会食会や配食サービス等がありますが、ここ数年「子ども食堂」が増加しています。こうした活動は主にボランティアが運営を担っており、その多くは運営に関する様々な負担に対し支援を必要としています。また、運営者から「横のつながり」を求める声も聞かれます。そこで「食」をキーワードに参加者がお互いの活動を理解し交流が生まれることで各団体の活動が活発になるよう、きっかけとなるイベントを企画しました。企画を進めるうち、昨年9月に寺子屋事業を主とした子ども食堂の虐待に関する事件があり、川崎市市民文化局が勉強会の開催を計画しているとの話から、開催時期と見込み参加者が当イベントとほぼ同じ為、同時開催の形式をとる運びになりました。</p>	<p>参加者には各講演を通して活動の具体的な事例に触れてもらい、ポスターセッションで市内の子ども食堂の活動を知ってもらうことが出来ました。アンケートの結果、すべての項目で「あまり良くなかった」「良くなかった」に印が付かなかったことや自由記述でも比較的好意的な意見が多かったことから、参加者には概ね満足してもらえたと考えます。</p> <p>講演内容は、子ども食堂団体だけでなく、地域包括の取り組みも紹介したので、市外から関心を持たれた参加者もありました。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>「食」で広がるネットワーク もう一つのリビングダイニング 開催場所： 中原区役所 5階会議室 実施時期： 2020年1月19日(日) 内容：事例発表：2件</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 菜の花ダイニング 副代表 有井幸弘氏 ② とどろき地域包括支援センター長 北川大氏 <p>ポスターセッション：4団体 活動団体のポスター展示：12団体 ※川崎市の部としての講演会 全体を通してグラフィックレコーダーによる総括交流会</p> <p>参加者：92名(スタッフ12名) アンケート：回答44名</p>	<p>アンケート結果より今回の参加者は、子ども食堂の運営者やボランティア、直接かかわってはいないが興味・関心がある、という人が全体の8割強を占めました。企画では、「食」に関わる様々な支援活動をしている人に集まってもらうと考えた点からすると、参加者が子ども食堂関連の人たちに集中してしまったことは反省点の一つです。また、運営者同士がつながりをもてるようなイベントを目指しましたが、事例紹介や市内の子ども食堂の紹介に力が入りすぎてしまった感があります。次回はコミュニティカフェ運営者や配食サービスなど様々な活動をしている人たちに届くような広報やワークショップを取り入れるなどプログラムの内容に工夫が必要と考えます。</p>



講演の様子



ポスターセッションの様子



記念撮影

団体名	一般社団法人 ルミナルド 22
事業名	リスク管理・資産形成のための金融知識向上(子どもから大人まで)の支援

目的・背景	事業の効果
<p>金融知識向上のためのセミナー(知識と実践)とアドバイス</p> <p>対象者は子どもから大人まで、各種情報提供(社会保障のしくみ・ファイナンス全般等)や実践を通し暮らしに役立つ金融知識能力の向上に寄与すること。</p> <p>・消費者市民教育の一環としての金融リスク管理の周知 資産形成セミナー・・・将来へ向けての金融(お金の)不安軽減のための情報提供。</p> <p>子どもへの金銭教育・・・おつかいゲームを通してお金の重要性を学ぶこと。</p>	<p>資産形成セミナー</p> <p>・金融の歴史からその背景にはじまり現在の経済状況まで、資産形成に関する知識の枠を広げると共に、旬の情報提供と継続的学習の必要性を伝えることができた。</p> <p>子どもへの金銭教育</p> <p>・ゲームを通して、お金の使い方、記録することの大切さ、自身の嗜好と買物のルールとのバランス感覚、周囲をみて進行状況を把握できる感覚を確認できた。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>●3回シリーズセミナー</p> <p>シリーズを考えつつ単独の講座としても対応可能な構成にしていたため、参加しやすいと同時に1単位参加でも全体内容を把握できるものになった。</p> <p>開催したことにより、地域での資産形成学習のきっかけづくりと最新の情報提供になった。</p> <p>●おつかいゲーム</p> <p>子どもたちの新しい感覚(一人で買物の経験が乏しいこと)を実感したことで、今後のゲーム内容のレベルアップや進行手順に重要なヒントを得ることができた。</p> <p>●全体を通して</p> <p>現況で最適な情報提供の必要性和、そこから予測できる事象をプログラムに取り入れる必要性を痛感した。</p>	<p>・受講者と開催回数を増やすこと(セミナー・ゲーム)</p> <p>ウェブの活用と人脈の活用がじゅうぶんでなかったため、サイトの再構築とPR方法を工夫する必要性。(チラシ作成と設置場所、アプローチの期間、地域を巻きこめる力の強化を含む)</p> <p>・アプローチの対象と募集方法について(ゲーム)</p> <p>実施先選定と対応時期とのバランス調整が困難であったため、時期と開催場所の再考の必要性を痛感した。</p> <p>・プログラム構成と内容充実の必要性(セミナー・ゲーム)</p> <p>対象者の多様性と社会情勢の変化に対応するため、地域・年齢構成・ライフプラン等を基盤に考えていく必要性。(対応者のレベルアップと情報収集)</p>



資産形成セミナー(3回目)



おつかいゲーム(準備風景)



おつかいゲーム(参加者のようす)

団体名	FUTURE DESIGN
事業名	学校外で学ぶ子ども達が街を学び場と居場所に～多様な学びプロジェクト殻

目的・背景	事業の効果
<p>全国で 14 万 4 千人、川崎市だけでも小中合わせて 1,672 人の不登校児童生徒がありますが、そのうちの約9割の子が通う場所がなく、学ぶ機会や、家族以外の他者と出会う機会が公的に保障されていません。この事業は今ある既存の公的施設や地域の力を活用して、子ども達に他者とのあたたかい繋がりがや学びの機会を届け、街づくりを活性化させます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 参加してくれた子どもたちや親御さんからはプログラム内容は好評で、連続で来てくれる常連の子がいたり、市外を超えて東京都や埼玉県、横浜市、神奈川県央から参加する方がいるなど、ニーズを感じました。 ● 定員は少数でしたが、FB ページで報告の発信をしていたので、実際に足を運べない人たちにも雰囲気伝わり、他地域で、フリースクールや親の会が主催して「まちの先生」や「居場所カフェ」が開催されるなど、別の繋がりがありました。 ● 子ども文化センターの繋がりが縁で、かわさき市民活動センター運営の全 57 館が新たに不登校の子ども達が平日昼間に立ち寄れる居場所(「とまり木」)に登録してくださいました。
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p><まちの先生></p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月27日(木)革作家から学ぶ革小物づくり／5名 ・7月18日(木)保育士から学ぶ保育士体験参加／3名 ・8月8日(木)農家から学ぶ夏野菜の収穫と流しそうめん／20名(親子) ・9月19日(木)プロダクトデザイナーから学ぶゴミ箱のデザイン／5名 ・11月21日(木)雑誌記者から学ぶインタビューの仕方／4名 ・1月23日(木)コピーライターから学ぶキャッチコピーの作り方／9名 ・3月19日(木)ウェブデザイナーから学ぶホームページ作り／5名 <p><居場所カフェ></p> <ul style="list-style-type: none"> 6月13日(木) 親8名、子ども6名 8月22日(木) 親3名、子ども1名 10月17日(木) 親6名、子ども4名 12月19日(木) 親4名、子ども0名 2月20日(木) 親5名、子ども6名 	<p>本助成金を得られたことで川崎市教育委員会の後援も得られ、市内の全市立小中学校(各学校10枚ずつ)と市民館、区役所、子ども文化センター(各館20枚ずつ)、総合教育センター(10枚)、市内の不登校親の会に計約5000枚のチラシを配布することができました。</p> <p>2019年度1枚にまとめて春に印刷、配布したため、枚数ほどの集客には繋がりませんでした。学校の先生方に知っていただくキッカケになりました。</p> <p>学校の先生から手渡されて参加された親御さんも2組いらっしゃいました。ただ他の不登校の子を育てている市内在住の親御さんに聞くと、学校の先生からの紹介はなかったそうです。総合教育センターからも最初はチラシの掲示や配布は断れ、10枚だけ預かって頂いたのみなので、引き続き学校や総合教育センター、教育委員会との連携が課題と感じました。</p>



コピーライターから学ぶ



プロダクトデザイナーから学ぶ



居場所カフェ